

年間
特集

2010年自然災害科学年間特集 「阪神淡路大震災から15年を経て ～わかったこと、変わったこと～」 を始めるにあたって

自然災害科学編集委員会

委員長 三村 衛

1995年1月17日午前5時46分に発生した兵庫県南部地震は、神戸、阪神エリアに未曾有の被害をもたらした阪神淡路大震災として我々の記憶に鮮明に残っています。一瞬にして6,000名以上の人名が奪われ、一般家屋の倒壊と火災、阪神高速道路の倒壊、神戸港岸壁・港湾施設の崩壊、液状化による埋立地の地盤災害、斜面崩壊、地下構造物や杭基礎の被害など、防災研究に携わる者にとっては衝撃的な光景を目の当たりにしました。大都市を襲った震災はその後の復旧、復興過程における様々な問題も浮き彫りにしました。

日本自然災害学会では、2010年に阪神淡路大震災から15年を迎えるにあたり、年間特集として「阪神淡路大震災から15年を経て～わかったこと、変わったこと～」を企画いたしました。兵庫県南部地震を契機に、防災研究に関わる各分野において、それまでの常識を覆すような新しい考えかたやアイデアが提案されるようになり、学術的には大きく変貌を遂げつつあります。本年間特集では、兵庫県南部地震によってもたらされた新たな

事実、それに基づいたモデル化や解析手法の確立、実問題への適用などについて、会員の皆様にわかりやすく情報をお伝えすることを主目的としております。また、この地震を境におこったパラダイムシフトについてもわかりやすく解説していただくことになっております。本特集では、特に重要であると思われる4つの分野、すなわち1)地震と活断層、強震動、2)地盤災害、3)耐震設計、4)防災教育と復興を取り上げ、第一線の研究者や技術者に斬新で先駆的な記事を執筆いただくことになりました。本号からスタートし、2010年に発行される4巻にわたって1)～4)を連載する形となります(表1参照)。

都市直下型地震である兵庫県南部地震をベースとして、ご自身に関連の深い分野の話題はもちろんですが、専門外の分野についても研究や実務の現状を知っていただく大変よい機会になると思います。是非、ご一読いただきますようお願い申し上げます。

表1 年間特集のテーマと執筆者

巻・号	発行年・月	取り上げるテーマ	執筆者
Vol. 28, No. 4	2010年2月	地震、断層、強震動	飯尾能久、遠田晋次、岩田知孝
Vol. 29, No. 1	2010年5月	地盤災害(山地、低平地)	釜井俊孝、井合進
Vol. 29, No. 2	2010年8月	耐震設計(土木、建築)	盛川仁、林康裕
Vol. 29, No. 3	2010年11月	防災教育と復興	林春男、矢守克也